**岡山県障害者計画策定に関する県民意識調査結果**

【調査の概要】

（１）調査地域：岡山県全域

（２）回答状況：調査数1,000 回答数 502（回収率 50.2％）

（３）調査方法：郵送配付－郵送回収

（４）調査期間：令和２(2020)年６月～７月

１　「共生社会」の認知度

問１　あなたは、障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考え方を知っていますか。





「共生社会」という考え方の認知度について、「知っている」が48.0％と最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」（28.7％）、「知らない」（21.5％）の順となっている。

性別にみると、大きな差はみられない。

２　「共生社会」についての考え

問２　国や地方公共団体では、「共生社会」の考え方に基づいて、障害のある人もない人も共に生活できるための環境作りを進めています。あなたは、この「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方について、どう思いますか。この中から１つだけお答えください。





「共生社会」についての考えについて、「そう思う」が59.0％と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」（21.5％）、「一概にいえない」（11.6％）などの順となっている。

３　「障害者週間」の認知度

問３　国は、障害や障害のある人に関する理解と関心を深め、障害のある人の社会参加への意欲を高めるために、毎年12月3日から12月9日までの１週間を「障害者週間」と決めて、さまざまな取り組みを行っています。あなたは、「障害者週間」を知っていますか。





「障害者週間」の認知度について、「知らない」が52.8％と最も高く、次いで「月日までは知らないが、「障害者週間」があることは知っている」（42.6％）、「月日も含めて知っている」（3.6％）の順となっている。

４　「障害者週間」を認知したきっかけ

問４　【問３で｢月日も含めて知っている｣「月日までは知らないが、「障害者週間」があることは知っている」を選択した方にお聞きします。】

それは何によって知りましたか。この中からいくつでもあげてください。



「障害者週間」を知ったきっかけは、「テレビ、ラジオ、新聞などの報道」との回答が56.5％と最も高く、次いで「国・地方公共団体の広報誌、ポスター、パンフレット」（51.7％）、「障害者関係団体などの行事や催し」（21.1％）などの順となっている。

５　行事や催しへの参加意向

問５　国や地方公共団体では、「障害者週間」を中心に障害のある人に対する理解を深めるために、次のようなさまざまな行事や催しを行っています。あなたは、このような行事や催しに今後参加してみたいと思いますか。

・障害のある人のことをテーマとしたセミナーやシンポジウム

・障害のある人による演劇・コンサート

・障害のある人とともに行うスポーツ

・障害のある人が作成した絵画等展示会・作品展

・福祉バザー





行事や催しへの参加意向は、「機会があれば参加したい」が60.6％と最も高く、次いで「参加したいと思わない」（12.7％）、「ぜひ参加したい」（6.0％）などの順となっている。

６　身の回りにいる障害のある人について

問６　あなたの身近に障害のある人がいますか、または、これまでいたことがありますか。この中からいくつでもあげてください。



障害のある人に関する周囲の状況について、「自分自身又は家族等身近な親族」が39.2％と最も高く、次いで「隣近所」（29.5％）、「学校」（27.7％）などの順となっている。

７　障害のある人との交流の有無

問７　あなたは、障害のある人が困っているときに、話しかけたり手助けをしたりしたことがありますか。





障害のある人との交流の有無について、「ある」との回答が67.9％、「ない」との回答が31.1％となっている。

８　障害のある人と交流する際の気持ち



問８　【問７で｢ある｣を選択した方にお聞きします。】

それはどのような気持ちからでしょうか。この中からいくつでもあげてください。

障害のある人と交流する際の気持ちについて、「困っているときはお互い様という気持ちから」が76.0％と最も高く、次いで「障害のある人と話をしたり、手助けをするのは当たり前のことだと思うから」（53.4％）、「身内などに障害のある人がいて、その大変さを知っているから」（29.3％）などの順となっている。

９　障害のある人との交流の内容

問９　【問７で｢ある｣を選択した方にお聞きします。】

それはどのような話や手助けでしたか。この中からいくつでもあげてください。



障害のある人との交流の内容について、「横断歩道や階段で手助けをした」が34.3％と最も高く、次いで「席をゆずった」（33.1％）、「相談相手、話し相手」（30.5％）などの順となっている。

10　障害のある人との交流がなかった理由

問10　【問７で｢ない｣を選択した方にお聞きします。】

交流がなかったのはどうしてでしょうか。この中からいくつでもあげてください。



障害のある人との交流がなかった理由について、「たまたま機会がなかったから」が71.2％と最も高く、次いで「どのように接したらよいかわからなかったから」（19.2％）、「自分が何をすればよいかわからなかったから」（17.3％）などの順となっている。

11　差別の有無

問11　あなたは、世の中に障害のある人に対する偏見や差別があると思いますか。





差別の有無について、「あると思う」が53.6％と最も高く、次いで「少しはあると思う」（37.5％）、「ないと思う」（5.4％）などの順となっている。

12　５年前と比べた差別の改善状況

問12　【問11で「あると思う」、｢少しはあると思う｣を選択した方にお聞きします。】

あなたは、５年前と比べて障害のある人に対する偏見や差別は改善されたと思いますか。





５年前と比べた差別の改善状況について、「少しずつ改善されている」が50.5％と最も高く、次いで「あまり改善されていない」（16.8％）、「どちらともいえない」（9.0％）などの順となっている。

13　「障害者計画」策定のための委員会への参加意向

問13　「障害者基本法」では、都道府県や市町村が、障害のある人の自立及び社会参加の支援等のための施策を進めるための基本的な計画（障害者計画）をつくることとなっています。この計画をつくるに当たって、意見や要望を出すことができる場が設けられるとしたら、あなたは参加したいと思いますか。





「障害者計画」策定のための委員会への参加意向について、「参加したいと思わないが、検討状況を知りたい」が41.8％と最も高く、次いで「障害のある人々や専門家で十分議論すべきことなので、参加したいと思わない」（15.9％）、「参加したい」（9.2％）などの順となっている。

14　発達障害への理解

問14　限局性学習障害（LD）や注意欠如・多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム障害（ASD）などの発達障害を持つ本人やその家族を支援するためには、発達障害についてまわりの理解が重要です。あなたは、発達障害について社会の理解は深まっていると思いますか。





発達障害への理解について、「どちらかといえば深まっていると思う」が34.9％と最も高く、次いで「どちらかといえば深まっているとは思わない」（20.7％）、「深まっているとは思わない」（18.3％）などの順となっている。

15　発達障害について社会の理解を深めていくために必要と思う施策



問15　発達障害について社会の理解を深めていくためには、県としてどのような施策が必要だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。

発達障害について社会の理解を深めていくために必要だと思う施策について、「小・中学校、高校等の教職員や児童生徒の理解を深める」が67.7％と最も高く、次いで「企業、事業所等で、雇用者や職場仲間の理解を深める」（48.4％）、「保育所、学童保育等で子どもと身近に接する保育士や指導員の理解を深める」（44.8％）などの順となっている。

16　「障害者差別解消法」の認知度

問17　障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら共に生きる社会づくりを目指すため、平成28年4月からいわゆる「障害者差別解消法」が施行されています。あなたはこの法律を知っていますか。





「障害者差別解消法」の認知度について、「知らない」が69.3％と最も高く、次いで「詳しい内容は知らないが、法律ができたことは聞いたことがある」（22.9％）、「法律の内容も含めて知っている」（4.0％）などの順となっている。

17　配慮や工夫を行わないことが「障害を理由とする差別」にあたるか

問18　障害のある人とない人が同じように生活するためには、例えば、受付窓口で耳の不自由な方に筆談で対応したり、商店で高い棚にある商品を店員が代わりに取ってあげたりするなどいろいろな配慮や工夫が必要になることがあります。あなたは、こうした配慮や工夫を行わないことは、「障害を理由とする差別」だと思いますか。





配慮や工夫を行わないことが「障害を理由とする差別」にあたるかについて、「差別に当たるとは思わない」が23.7％と最も高く、次いで「一概にいえない」（23.5％）、「どちらかといえば差別に当たると思う」（20.3％）などの順となっている。

18　配慮や工夫を求められた場合の経済的な負担



問19　障害のある人が、障害のない人と同じように生活していくためには、さまざまな配慮や工夫が必要となります。一方こうした配慮や工夫を行うには、経済的な負担を伴う場合もあります。あなたは企業などがこうした配慮や工夫をどの程度行うべきと考えますか。この中から１つだけお答えください。



配慮や工夫を求められた場合の経済的な負担について、「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行うよう努力すべきと思う」が27.5％と最も高く、次いで「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫をするよう義務付けるべきと思う」（25.1％）、「負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を行うよう努力すべきと思う」（21.9％）などの順となっている。

19　民間団体が行う活動に対する希望

問20　あなたは、障害のある人のために企業や民間団体が行う活動について、どのようなことを希望しますか。この中からいくつでもあげてください。

民間団体が行う活動に対する希望について、「障害者になっても継続して働くことができる体制の整備」が69.9％と最も高く、次いで「障害のある人の雇用の促進」（61.2％）、「障害のある人に配慮した事業所等の改善・整備」（51.6％）などの順となっている。

20　力を入れる必要があると思う行政の施策

問22　障害のある人に関する国や地方公共団体の施策のうち、あなたがもっと力を入れる必要があると思うものをこの中からいくつでもあげてください。



力を入れる必要があると思う行政の施策について、「障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保」が59.4％と最も高く、次いで「障害のある子どもの相談・支援体制や教育の充実と、障害のある人への生涯学習の充実」（48.6％）、「住宅や建物、交通機関のバリアフリー化」（46.4％）などの順となっている。

21　５年前と比べた障害者施策の進捗状況

問24　あなたは、５年前と比べて福祉・教育・雇用・まちづくりなどの障害者施策は進んだと思いますか。





５年前と比べた障害者施策の進捗状況について、「少し進んだと思う」が38.0％と最も高く、次いで「あまり進んだと思わない」（22.7％）、「かなり進んだと思う」（10.0％）などの順となっている。

22　ヘルプマークの認知度

問25　あなたはヘルプマークを知っていますか。（ヘルプマークは援助が必要な方のためのマークです。）





ヘルプマークの認知度について、「見たことも聞いたこともない」が37.1％と最も高く、次いで「知っている」（34.1％）、「見聞きしたことはあるが、意味は知らない」（25.9％）となっている。